

HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)を接種してあげてください

私たち小山地区医師会から保護者の方へ

お子様が子宮頸がんにならないために  
お伝えしなければならないことがあります



現在、我が国では子宮頸がんが年間約1万人に発症し、毎年約3,000人が亡くなっています。

また、子宮頸がんの罹患年齢のピークが30代から40代前半であるため、晩婚化ならびに出産年齢の上昇傾向にある我が国では、子宮頸がんの治療(子宮摘出・切除術など)により出産困難あるいは出産不可能となる女性が増加しています。

子宮頸がんによりお子様の命が危険にさらされるばかりでなく、次の世代の命を生み継ぐことができなくなる可能性もあるのです。

HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)は、すでに世界の130か国以上で導入されています。世界保健機関(WHO)は、世界中でこのワクチンを国の予防接種プログラムに導入すべきであると繰り返し推奨しています。ワクチンと検診にて、今世紀中に子宮頸がんを撲滅することが可能とさえ言われています。

このワクチンの安全性については科学的な検証の結果、他のワクチンと同様、特別な問題はありません。我が国で約6年前にワクチン接種後に報告された多様な神経症状に関して、国内外において多くの調査が慎重に行われてきましたが、これらの症状とワクチン接種との因果関係を証明するような科学的・疫学的データはありませんでした。

私たち小山地区医師会の医師は、自分の娘たちにこのワクチンを接種しています。他のワクチンと同様、このワクチンが極めて有効で安全だからです。

なお、このワクチンとの因果関係はなくても、万一、接種後に何らかの症状が生じた場合には、相談窓口と支援体制が整えられています。

私たち小山地区医師会は、将来、この小山地区にて子宮頸がんを苦しむ女性をひとりも作らないために、お子様にHPVワクチンを接種していただきたいと強く願っております。

ご不安な点やご質問があればご説明いたしますので、遠慮なくご相談ください。